

# 令和3年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

## 1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.7	本校設置学科、6学科において、各部署で生徒の実態を踏まえ、計画、実行、評価、改善を実践し、継続的な改善を目指している。昨年度より、クラウドを利用した職員間グループウェアを稼働させ、各校務分掌毎に共有フォルダを置き、教職員間の共通理解と業務効率化、紙資源の節約を目指している。来年度からは校務支援システムを導入する。

## 2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.4	担任、副担任で連携し、学年、学科とも調整を図りながら、学級目標達成に向けて、クラス経営を行った。コロナ禍により、保護者との交流の機会がほとんどなく、一方的な連絡、通知が多かった。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する	3.5	年間授業計画を基に授業展開を行っている。一方では、生徒の学習意欲啓発のためにも、更にシラバスの生徒への提示と説明が必要であり、学習効果につながっているかの検証も重要である。 感染症の拡大からオンライン授業を展開せざるを得ない状況となり、そのことがICT教育の追い風となった。担当者の創意工夫によって、生徒の興味を引く授業が増えつつある。従来の授業形態での学習効果との比較について、常にその検証が必要である。
			効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める		
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる	3.9	生徒会の朝の挨拶運動、清掃活動など、自主的、積極的な取り組みが目立つようになり良い傾向が続いている。立案、計画に時間を要する場面もあり、教師側のサポートも不可欠である。 コロナ禍で学校行事実施の可能な範囲を模索し、体育大会、文化祭ではライブ配信等、見直しを行った。修学旅行については行き先を4回変更し、実施計画の見直しを行ったが、感染症拡大の時期と重なり、実施には至らなかった。
		学校行事の充実	効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールへの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.5	服装容儀、挨拶、提出物期限厳守、時間厳守など、日々、各クラス、各学科で指導を行っている。成人年齢の引き下げに伴い、さらに、社会人としての様々なルールに対する指導が必要である。 事故防止のための指導は通学手段別指導、講習会、クラス毎の指導で継続的に行っている。SNSの使用による心身への影響や生活習慣の乱れについては、更に理解させると共に、家族との連携も必要である。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に応じた進学・就職指導	3.9	就職面接がオンライン面接へと変化する中、担任、副担任、学科で協力し、生徒に応じた指導を実践した。また、コロナ禍で外部との接触が制限される中、個別指導、三者面談を重ね、生徒の進路実現のため努力した。医療福祉科については、国家試験3年連続100%合格を達成し、今後も100%合格を目標に指導を継続する。看護学科については、指導体制を改善、工夫し、100%合格を目指す。進学指導については、週末の自学自習の指導について改善の余地がある。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる	3.5	心の健康に問題を抱える生徒が多くなる傾向にある。課題が複雑化しており、職員間での情報共有、関係機関との連携を図りながらできるだけ早期に対応できるように努力している。体育指導については、コロナ対応に苦慮したが、体育大会、持久走大会など、安全に実施することができた。防災訓練に関しては、生徒の意識を高め、さらに真剣に取り組むための指導を継続して行う必要がある。ゴミ分別の徹底は引き続き今後の課題。今年度は特に花壇の整備に注力し、良い環境が整ってきた。
		体育指導の徹底	運動技能を高め、体力向上を図る		
		防火・防災訓練	防災についての意識の高揚を図る		
		環境衛生の整備	学習にふさわしい環境を整える		
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成	4.2	広報部を中心に、全職員による丁寧な対応、献身的な取り組みが入学増につながっている。入学案内、パンフレットの工夫、ホームページも充実することで、学校の様子を案内できている。これまでの反省点も振り返りながら、地区別説明会、中高連絡会、体験入学、進学相談会、出向説明会をさらに充実させ、今後は新しい企画も準備中である。一方では、入学後、本校で学び、活動をする際の在校生の満足度をさらに高めていくことが今後の課題である。広報の担当する本校への入口はもちろんのこと、進路指導部が担当する出口(進路実現)がさらに責任重大となるため、広報と進路指導の連携強化に努めている。
			中高連絡会・体験入学の実施		
			中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施		
			ホームページ・Eメールの管理		
PTA・中学生の訪問受け入れ					
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.6	コロナ禍、分散登校、オンライン授業等で部活動にかんがりの制約があったが、可能な範囲で積極的に取り組んだ。挨拶等で評価されるコミュニケーション力を高め、地域から応援される部活動を目指す。大会、試合の結果だけではなく、部活動が学習への取り組み、日々の生活面へ好影響をもたらす指導を日々実践していくことを目標としている。一方、強化部については学校生活、大会実績についても更に高いレベルでの研鑽、厳しさが求められる。
評 価				3.7	